

(公財) 全国高等学校体育連盟空手道専門部大会申し合わせ事項 (2022 全国総体・愛媛)

(公財)全国高等学校体育連盟空手道専門部

I. 選手の服装と頭髪等

[1] 空手道衣

- 1) 空手道衣は白無地一色とし、落書きやふちどりのあるものは禁止する。また、帯の色は白・茶・黒いずれかとし、ゴムやマジックテープなどを付けることは禁止する。
- 2) 空手道衣の左胸に入れる校名は、次の基準による。
 - ① 一文字の大きさは5cm×5cm～7cm×7cmとする。(縦書で全体の大きさ7cm×15cm程度)
 - ② 字体は丸ゴシック・行書・楷書の範囲とする。
 - ③ 文字の色は黒又は紺又はスクールカラーとする。但し、色を合わせて使うことはできない。
 - ④ 「～高」は必ずしも入れなくてよい。
 - ⑤ 個人名の刺繍を入れる場合は黒色とし、姓(名字)又はフルネームであることが望ましい。(個人名はなくてもよい)
 - ⑥ 指定箇所以外の刺繍は禁止する。
- 3) 空手道衣の左袖上腕部に入れる都道府県名は、次の基準による。
 - ① 一文字の大きさは5cm×5cm～7cm×7cmとする。
 - ② 都・府・県の文字は入れなくてよい。
 - ③ 字体・文字の色については、上記2)の②③⑤に準ずる。
- 4) 各競技では、赤青帯を着用する。(帯は個人または学校で用意をすること。)赤青帯には全空連検定ラベルと高体連指定ラベルの両方を貼っていること。帯への刺繍は一切しないことが望ましいが、全空連大会で認められていることもあるので、入れる場合は、下記の通りとする。

所属名 「〇〇高等学校空手道部」、「〇〇高等学校」、「〇〇県高体連」、
「全国高等学校体育連盟」、「全日本空手道連盟」
この類とし、会派流派名や道場名は不可とする。

もう片方は 名前

なお、テーピングテープ等を帯に巻き、刺繍を隠す行為は認めない。
刺繍の色は、金色又は銀色とする。
- 5) ズボンの空きは、ズボン全長にわたって、ズボンと脚との間(シンガードを付けずに、ズボンを片側に寄せた状態)が8cmから20cmでなければならない。(「気をつけ」の状態を判断する。)
- 6) 空手道衣の上下には高体連ラベルが縫い付けてあること。高体連ラベルがあっても規定に反する場合は試合に出場できません。

[2] 選手の頭髪等

- 1) 男子はスポーツマンらしい頭髪にし、長くても「まゆげ」にかからず、「耳」が見え、「エアアシ」が見えるように整髪する。
- 2) パーマ、リーゼント、ソリ、ヒゲ、染色、脱色を禁止する。
- 3) 女子は、ヘアピン等の危険物の使用及びリボン・鉢巻きの使用を禁止する。空手道衣の下は白無地のTシャツとする。(但し、ワンポイント校名もしくはワンポイントのロゴ入りは認める)

II. 組手競技では男子5点・女子4点の安全具を必ず着用すること。

- 1) ニューメンホーVI及びVII(全空連検定のもの)
- 2) 拳サポーター赤・青(全空連検定のもの)
※ミズノ製新安全具(宮城選抜同様)も使用可。
- 3) ボディプロテクター(高体連指定またはミズノ製のもの)
- 4) シンガード・インステップガード(高体連指定のもの)
※ミズノ製新安全具(宮城選抜同様)も使用可。
※東海堂製(2022年販売)のシンガード・インステップガードは使用できません。
- 5) セーフティカップ(男子のみ)・・・空手道衣の下に着用すること。
※違反者の参加は反則負けとなる。(1分間ルール適用)
※マウスピースを使用してもよい(任意)。ただし、色は白色か透明なものとする。
※コロナ感染防止の観点からメンホー内側に専用の口元シールドの着用を義務付ける。

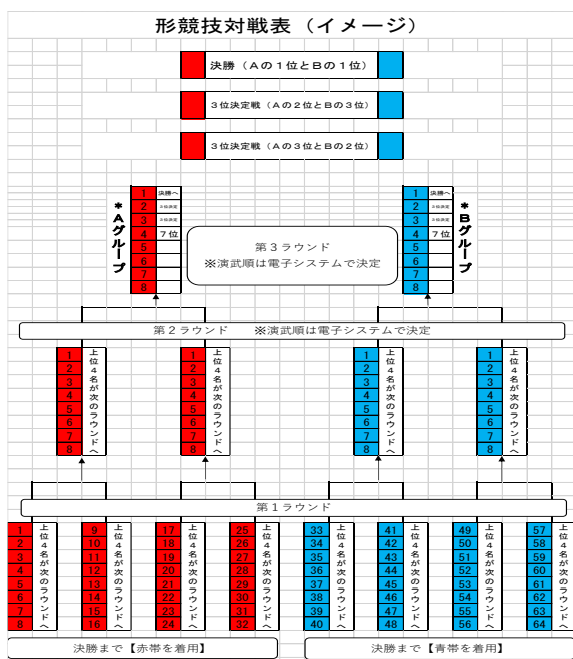
- III. 組手競技・形競技ともにメガネ、コンタクトレンズ（ハード）の使用は禁止とする。但し、コンタクトレンズ（ソフト）の使用は、個人の責任において認める。
- IV. 負傷及び再発防止のための包帯、サポーター・テーピングの使用を許可する。但し、次の条件を満たすものであること。
- 1) 攻撃および防御強化のために使用してはならない。
 - 2) 相手に危害を及ぼすようなものを中に入れてはならない。
 - 3) 装着不備により、競技をしばしば中断させないこと。
 - 4) テープの色は、白またはベージュ系の2色のみとする。
 - 5) サポーターの色は、白またはベージュ系の2色のみとするが、膝についてはこの限りではない。
 - 6) テープとサポーターの同一箇所への兼用は禁止する。
 - 7) 清潔な物であること。
- [注] あくまでも選手の安全と再発予防のため、軽度の疾病者を対象としたものであり、常識を逸脱するような内容の者及び重傷の出場者を許可するものではない。
- ※上記に違反した者は当該競技種目のみ反則負けとする。

V. 組手競技

- 1) 申し合わせ事項Ⅱ.において指定された安全具を必ず着用すること。
- 2) 男女個人組手は敗者復活戦を行います。
- 3) 団体競技において、登録されたメンバーの枠の中で、各回戦毎のオーダーの変更はできる。但し、試合毎にオーダー票を提出すること。提出後の変更は認めない。
- 4) 団体競技は、1・2回戦は全員試合を行うが、3回戦以降は勝敗が決まった段階で試合を終了する。
- 5) 団体競技は、規定の過半数の選手（現行は3人）で成立する。エントリーは自由に配置できる。
- 6) 一度棄権した選手は、以降の当該種目のみ出場できない。
- 7) 組手競技に於ける危険回避（事故防止）のための遵守事項。
 - ①メンホーは皮膚の一部であり、メンホーの開口部に手を入れたり、掴んだり、押したり、それに関連する動作は全て禁止でペナルティが課せられる。
 - ②メンホーの装着は仕様に従い、しっかり装着すること。
- 8) 倒した、あるいは倒れた相手に対する蹴り技は認められるが、必要以上の加撃がないように充分注意すること。
- 9) 従来通りのジュニアカデットルールで実施する。（富山インターハイと同様）

VI. 形競技

- 1) 2019年度改定の得点制とする。
- 2) 個人形競技の第1ラウンドは(公財)全日本空手道連盟第1・2指定形とする。第2ラウンド以降は(公財)全日本空手道連盟得意形とし一度使った形は使えない。最低4つの形が必要。



- 3) 大戦表の左側は赤帯、右側は青帯を着用。第2ラウンド以降の演武の順番は電子形判定システムによってランダムに決定する。決勝戦・3位決定戦は赤帯側から先に演武する。
- 4) 同点の解決方法は（公財）全日本空手道連盟の「2022年度判定基準：電子システムによる同点の解決」に準じて行う。

※同点とは上位ラウンド進出に関わる時とメダルマッチの時に同点が出た場合。

※第一指定形・第二指定形及び得意形は空手道競技規定（J K F 2019年度初版）の「付録17:指定形リスト」並びに「付録18:全空連得意形リスト」から選択しなければならない。

Ⅶ. 引率

- 1) 引率責任者は、団体の場合は校長の認める当該校の職員とする。個人の場合は校長の認める学校の職員とする。
- 2) 引率責任者は選手のすべての行動に対して責任を持つこと。

Ⅷ. 監督

- 1) 監督は（公財）全日本空手道連盟会員登録者であること。
- 2) 監督は審判員を兼ねることはできない。
- 3) 監督はあらかじめ届け出された学校の指導者（学校長が認めた者）とし、原則1名とするが、競技日程の関係で男女あるいは選手が重複して出場し、同時進行になった場合に限り、運用として当該校の校長が認めた顧問・コーチが、その競技のみの臨時の監督を務めることができる。但し、事前に競技委員長に申し出る義務を有する。
- 4) 監督の服装は以下の通りとする。
監督の服装は全種目1回戦からスーツの着用となります。スーツはダークスーツとし、ネクタイは審判員とは異なるものを着用する。女性はスラックスでもスカートでもよく、ネクタイは着用してもしなくてもよい。シューズの底は体育館フロアを傷つけないゴム製や布製のものとする。
※上記以外の服装は、監督に付けない。

Ⅸ. 健康管理

- 1) 競技中の疾病・障害等の応急処置は主催者側で行うが、その後の責任は負わない。
（傷害保険の加入・大会医師の常駐）
- 2) 故障者については、監督の責任で出場を取り止めること。
- 3) 参加選手・役員は、健康保険証を持参すること。

X. その他の注意事項

- 1) 競技中に競技者からのタイムの要求はできない。全て主審または副審のアピールによる。
- 2) 競技者が定位置に戻るときは速やかに戻る。だらしない態度や行動はしないこと。
- 3) 競技者が定位置に立ったときは、完全に静止し主審の合図を待つこと。
- 4) 競技者がポイントを取ったとき、または勝ったときのオーバーアクションやガッツポーズを禁止する。（監督や待機選手も同様とする。）
- 5) 競技者が道衣の上に衣類を着用する場合はだらしない着方をせず、競技開始時や終了時には脱ぐこと。
- 6) 競技者が試合コート内で円陣を作り、氣勢を上げる等の示威行為を禁止する。
- 7) 組手の競技者は、定位置のみならず試合コートへの出入り時にも「礼」をすること。

XI. 審判員心得及び確認事項

- 1) 公平・無私・正確を旨とすること。
- 2) 主審は競技中の主導権を持ち、スムーズな進行に心がける。
- 3) 監督及び選手のマナーの指導も行う。（会場内の過度な応援に対する指導も含む。）

以上

愛媛インターハイ出場校 顧問・監督 様

全国高体連空手道専門部審判委員会

この度は、全国高等学校総合体育大会空手道競技大会の出場おめでとうございます。平素は、斯道発展になにかとご理解ご協力を頂き感謝申し上げます。

さて、この度の大会出場に関しまして、特に下記の点にご留意頂きますようお願い申し上げます。

また、新型コロナ感染予防のため急遽、変更になる場合があります。その場合はその都度、指示いたしますのでご了解ください。

本大会は、公益財団法人全日本空手道連盟競技規定・審判規定、並びに公益財団法人全国高体連空手道専門部申し合わせ事項によっておこなわれます。競技上の事については、最終的には審判団の決めたことに従い、円滑な競技運営にご協力ください。

※開会式的全選手の参加はありません。監督・引率者の責任で道衣や安全具などの不備がないように十分注意してください。TATAMI にて不備があった場合、1分間ルールを適用します。

※空手道衣について（資料①）、赤青帯の指定業者・刺繍について（資料②）、形競技の要領と礼法（資料③）、形番号リスト表（資料④）、組手競技の要領と礼法（資料⑤）、ビデオレビューについて（資料⑥）、は各資料に詳しく記載してありますので「申し合せ事項」と併せてご一読ください。

「安全具」

決められた物を正しく装着してください。団体戦は、5人全員が試合開始時に全ての安全具を装着していなければいけません。（貸し借りは出来ません）シンガード、インステップガードのメーカーは「東海堂、守礼堂、ヒロタ、東京堂インターナショナル、ミズノ」の5社のみです。

但し、2022年販売の東海堂製のシンガード、インステップガードは使用できません。

※メンホー用マウスシールドは、必ず付属のテープで固定してください。

※メンホーは、「メンホーⅥ、Ⅶ」となります。

「組手競技について」

2022年に全空連ルールの一部改定がありました。主な項目は次の通りです。

・顔面への接触については、従来通りのジュニアカデットルールで実施します。

・「わかれて一つづけて」・・・競技時間の開始から終了するまで該当します。

・「不活動」・・・15秒未満は該当しません。

男女個人組手は敗者復活戦を行います。決勝戦進出者と対戦した選手は敗者復活戦に出場しますので、勝ち上がりをしっかり確認してください。万一、招集時間に招集していない場合、『棄権』となります。十分注意してください。

＜その他確認して欲しい点＞

・テンカウントやドクターストップを除く、C1により2回反則勝ちとなった選手は、ドクターの許可がないと以降の組手競技（個人戦・団体戦共）に出場できない。

（審判長又はTM立ち会いのもと、ドクターの診断を受け競技続行の可否を確認します）

・8ポイント以上の得点で勝利した場合、得点の全てが獲得される。例えば7対0のとき、1本（3ポイント）で得点した場合、10対0と記録される。

団体戦において、例えば2勝1敗1引き分けにおいて11ポイント以上の差があれば、その時点で終了となります（3回戦以上）。1・2回戦は勝敗が決しても最後まで行います。

・10カウントルールを採用します。

※団体戦のオーダー記入は、必ず監督がおこない、記入ミスのないようにしてください。

※男女個人組手の3位決定戦・決勝戦、男女団体組手の準決勝戦・決勝戦はビデオレビューを行います。(※詳細は資料⑥)

「形競技について」(※詳細は資料③・④を参照)

- ・上位ラウンド進出に関わる時とメダルマッチの時に同点が出た場合は「判定基準：電子システムによる解決(2022年改定)」に基づき行います。
- ・TATAMIに入る時、出る時の礼はしないでください。時間の浪費にならないようお願いします。また、形の開始・終了時の2回の礼をしない場合は「反則」となります。
- ・不必要な息吹・足音、道着をたたく行為などは大幅な減点となりますので十分に注意してください。

「空手道衣・帯について」(※詳細は資料①・②を参照)

・空手道衣の上下には高体連ラベルが縫い付けてあること。高体連ラベルがあっても規定に反する場合は試合に出場できません。

・上衣の長さは、帯を締めた状態で腰を覆うほどの長さから、大腿部の4分の3までです。

運用面(計測方法)として帯を締め真直ぐ下した状態で膝の上10cmまでとします。

・帯の長さは結び目の両端から15cmほど残る長さから、大腿部の4分の3以下とする。

・上着の袖は最長手首までとし、肘から手首の間の中程より短くてはいけない。

また、上着の袖や裾をまくってはいけない。

・ズボンの長さは、少なくとも下肢の3分の2を覆う長さとし、踵が隠れてはならない。

・袖の空き部分、ズボンの空き部分に関しては片側に寄せた状態で、余っている部分の長さが**8～20cm**でなければならない

※必要と判断した時には、実際に測定し、それで違反と判明した場合は1分間ルールを適用します。

・上衣の紐は必ず付いていなければならず、さらに試合中は結んでいなければいけません。

また、上衣の胸紐は付けてはいけません。

「監督」

・臨時監督が付ける場合は、自校の試合が並行している場合です。また、監督席に選手を呼んで指示することは出来ません。

・**コロナ感染予防の観点から試合時も必ずマスクを着用してください。試合進行の妨げとなる場合、1回目は注意、2回目は退場となります。**

・1分間ルールが発生した場合、その試合に監督はつくことが出来なくなります。

・監督の服装は全種目1回戦からスーツの着用となります。スーツはダークスーツとし、ネクタイは審判員とは異なるものを着用する。女性はスラックスでもスカートでもよく、ネクタイは着用してもしなくてもよい。シューズの底は体育館フロアを傷つけないゴム製や布製のものとする。

※上記以外の服装は、監督に付けない。

「運営面」

・**ゼッケンの縫い付けは四つ角だけでなく、必ずすべての辺全部を縫っていること。**

・IDカードの裏面にメディカルチェック表があります。試合時はIDカードを着用して入場してください。試合時にカードを回収し、ドクター診断の際、症状などを記入します。試合終了時に返却します。紛失しないようにしてください。

以上

空手道衣に関する規定について

全国高体連空手道専門部

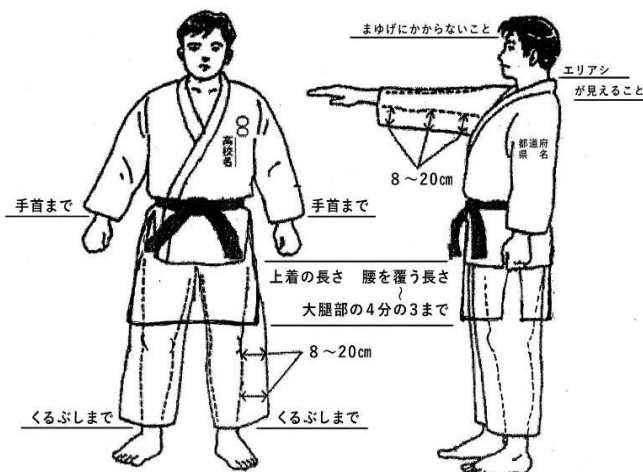
以下のように定める。また、申し合わせ事項を確認してください。

1. 道衣サイズについて
上着腕部分、下着足部分の幅は、腕・足から残りの部分が、8～20cmとする。
袖、上着の長さ、下着の裾の長さはルールブック通りとする。
2. 道衣の形について
従来のベーシックなもの（無駄なカット等のないもの）とする。
袖や裾やその他の部分において変形することは禁止とする。
3. 特に最近、袖や上着丈の長い選手がいます。上衣の長さは、帯を締めて腰を覆うほどの長さとし、大腿部の4分の3までです。測定方法として帯を締めた状態で真直ぐ下した状態で膝の上10cmまでとする。
また、帯の長さは結び目の両端から15cmほど残る長さから、大腿部の4分の3以下となります。
4. 胸紐は付けてはいけません。また上着の紐は付いていなければいけません。
5. 胸の学校名と袖の県名は、刺繍、プリントを問わず色は黒・紺・スクールカラーのどれかとする。（色を合わせて使うことは禁止。）
大きさは5×5cm～7×7cmとする。
6. 道衣の名前の刺繍は黒とする。（名前はなくてもよい。）
7. 決められた場所（胸の学校名、袖の県名、上着、下着の名前）以外に刺繍等をすることは禁止とする。
8. 道衣（上下）には高体連ラベルが縫い付けてあること。高体連ラベルがあっても規定に反する場合は試合に出場できません。

空手道衣の名前の刺繍について

- 1, 入れなくても良い
- 2, 入れる場合は黒色とする
（白色も禁止）
- 3, 入れる場合は自分の姓（名字）
またはフルネームであることが望ましい

※袖や裾は気を付けの姿勢で計測します。



赤・青帯 指定業者について

赤・青帯の高体連指定業者は全空連指定業者と同じく以下の4社です。

東海堂 守礼堂 ヒロタ 尚武

ただし全空連検定ラベルと高体連指定ラベルの両方を貼っているものとする。

上記4社の帯で、高体連ラベルのない帯については、ラベルだけの販売をいたします。指定業者に帯を持って行き（発送し）、ラベルを縫い付けてもらってください。ただし、ラベルを貼る場所が決まっていますので、ラベルを購入し個人で縫い付けることはしないようにしてください。

赤・青帯の刺繍について

本来のルールでは、刺繍を一切しないことになっていますが、入れる場合は以下の通りとなります。

所属名は 「〇〇高等学校空手道部」「〇〇高等学校」
「〇〇県高体連」「全国高等学校体育連盟」
「全日本空手道連盟」

※この類とし、会派流派名や道場名は不可です。

もう片方は、名前

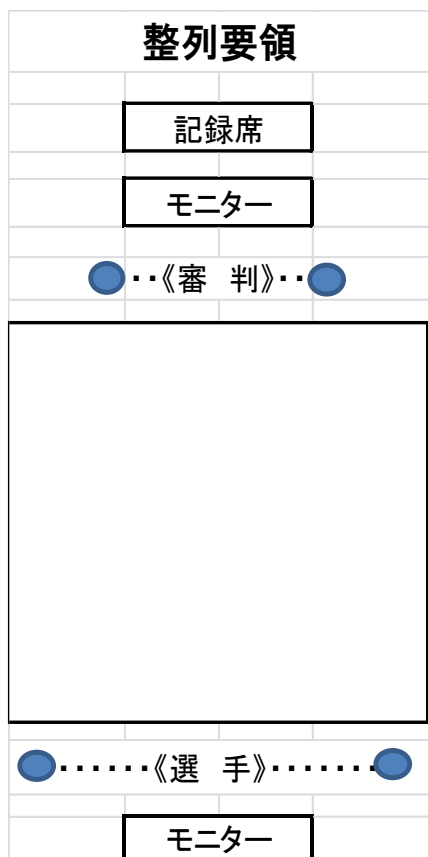
※テーピングテープ等を帯に巻き刺繍を隠す行為は認めません。

※刺繍の色は「金色・銀色のみ」とします。

形競技の要領と礼法について

※演武前と演武後の2回の礼をしなかった場合は反則となります。

※招集場でランナーが形名を聞きます。

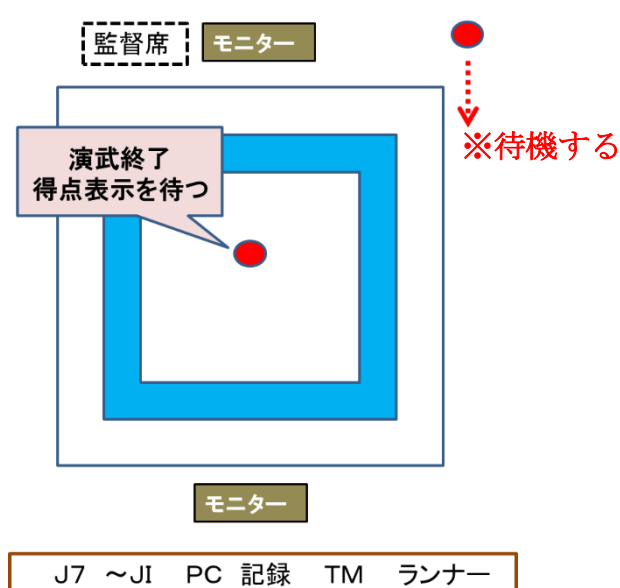
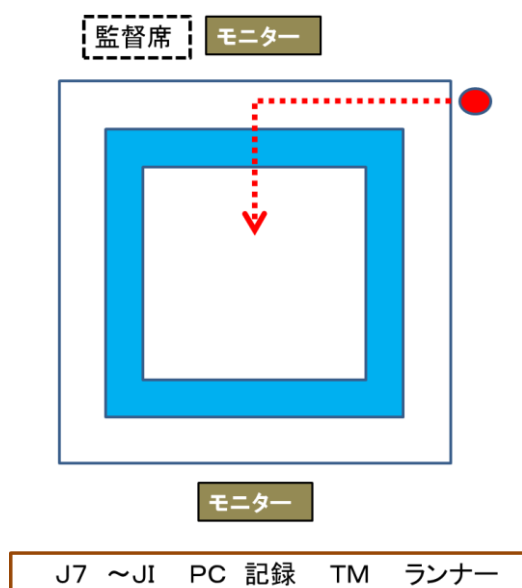


- ①招集場でランナー（選手から演武する形名を聞き取る仕事）が番号化された形リスト（資料④）を持って演武する形を番号で聞きます。
- ②入場後、審判の対面側に整列します。監督はタタミに誘導せず、そのまま後方の選手待機場所へ案内します。
- ③選手コール係りが選手名を呼ぶことはありません。モニターに自分の名前が表示されたら選手はタタミ中央から入場します。その際の礼はしません。
- ④演武位置に立ち、モニターに演武する形名が表示されたら礼をして演武をはじめます。この時に礼をしなかった場合、反則となります。**※1回目の礼です。**
もし、申告した形と異なる形名が表示された場合、挙手をして申し出てください。TMが対応します。**この時申告されず演武した場合、反則となります。**
- ⑤演武が終了したら礼をします。この時に礼をしなかった場合、反則となります。**※2回目の礼です。**
- ⑥得点発表はタタミ内で待ちます。
- ⑦モニターに得点が表示されたら短札をしてタタミから退場します。タタミから出る際は礼をしません。
- ⑧プール全員の演武が終了したら試合前と同じように全員が整列します。

⑨全員の得点が順位付けされモニターに表示されます。

※選手の入場は（左右どちらでも良い）

※次の選手



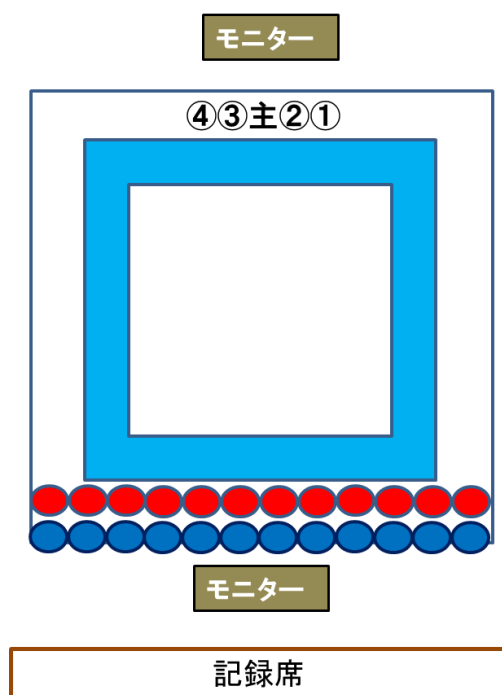
組手競技の要領と礼法について

※相手に敬意を持ってお互いに合わせて「気を付けの姿勢でしっかり礼」をしてください。
4回の礼となります。

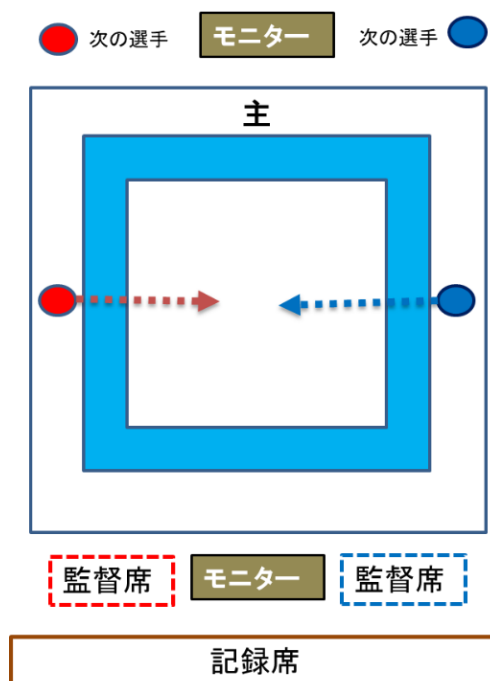
【個人組手】

- ①入場後、審判の対面側に整列します。監督はタタミに誘導せず、そのまま後方の選手待機場所へ案内します。
- ②選手コール係りが選手名を呼ぶことはありません。モニターに対戦（氏名）が表示されたら選手はタタミ横に立つ。
- ③主審の合図でタタミに入ります。監督席は主審と対面側に設けています（決勝戦はタタミ横に設置）。選手は相手に敬意を持ってお互いに合わせて礼をする。開始線に立ったら同様に合わせて「しっかり礼」をする。
- ④試合終了後、「しっかり礼」をする。タタミを出る際も同様にお互いに合わせて礼をする。

【個人組手整列】



【選手の配置】



【団体組手】

- ①入場退場は、赤青分かれてタタミ横に整列します。
- ②呼名はしない。対戦（氏名）が表示されたらタタミ横に立つ。

ビデオレビューについて

全国高体連空手道専門部審判部

男女個人組手3位決定戦・決勝戦、男女団体組手準決勝戦・決勝戦において、ビデオレビューを導入します。

以下説明をご一読ください。

1. 監督は、自校の選手の出した技について、その技が入っていると思うときに**椅子から立ってカード（赤・青）をあげる**ことが出来ます。（相手の技については一切何も出来ません）判定中は立っててください。
2. CS（コーチスーパーバイザー）にカードを渡し、「何の技か」教えてください。
3. その技が入っていた場合（YES）は、主審は得点をコールし、カードは監督に戻されます。その場合、再びカードを使用することが出来ます。
4. 技が入っていない（NO）と判断された場合は、得点はコールされず、主審は続けて始めます。その際、カードは没収されます。（団体戦の場合、次の試合では使えます）
5. 選手の方から監督にカードを出してほしいという行為、または監督が選手にカードをだすかどうか聞くような行為をした場合は、選手にC2の反則が与えられます。
（主審のポーズは、唇に人差し指を立てる）ただし、技の判定はおこなわれます。
6. 監督がカードをあげたとき、その技がC1・C2だった場合、カードは返却されます。
7. **ビデオスーパーバイザー（VRS）が得点の有無を確認できなかった場合、VRSは見えない（指先で両方の目を覆う）動作を行い、カードは返却されます。**
8. **もう一方の監督が2番目にビデオレビューを提示する場合、最初のビデオレビューが開始される前にカードを提示しなければならない。ビデオレビューは主審がビデオレビューのジェスチャーをした時点で開始されます。**